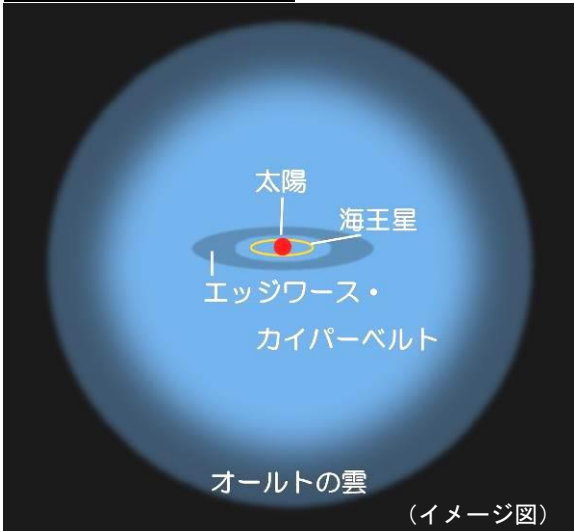


パンスターズ彗(すい)星

～ 宇宙の放浪者 ～

2020年5月に明るくなると予想されている彗星があります。それがパンスターズ彗星(C/2017 T2)です。彗星が明るくなるかどうかの予想は難しく、予想がはずれることもあります。この彗星に注目してみましょう。

彗星ってなに？



長く尾をひく彗星はその姿から「ほうき星」と呼ばれ、昔から知られていました。ただ、昔は不吉の前兆として忌まわしいものといわれてきました。彗星には3種類あります。周期が200年以内の短周期彗星、それ以上の長周期彗星、そして、放物線の軌道を移動し、一度太陽や地球に近づくと二度と帰ってこないと考えられる非周期彗星です。彗星は「オールトの雲」または「エッジワース・カイパーベルト」からやってくるといわれています。主成分は水(氷)で、「凍った泥団子」と呼ばれています。彗星の尾の正体は、太陽に近づいたときに蒸発して出たガスとチリです。尾は

太陽と反対側にのびます。尾にはまっすぐのびるイオンの尾と、曲がってのびた幅の広いチリの尾の2種類があります。ただ、暗い彗星の時はガスだけだったり、ほとんど尾のない時もあります。

彗星の動き

きりん座の中を移動していきますが、明るい星がなく、見つけづらいので、北極星を目じるしにするとよいでしょう。5月21～24日頃には、おおぐま座にある銀河 M81、M82の近くを通過します。この頃は月明かりもなく、見る条件としては良いでしょう。そして6月1日には北斗七星のひしゃくの部分へとやってきます。パンスターズ彗星の地球最接近は5月25日です。



観察しよう！



明るさは6等ぐらいまで明るくなると予想されています。ただ、彗星の予想は難しく、そこまで明るくなるかどうかはわかりません。望遠鏡を持っている人は彗星にむけてみてください。望遠鏡で見ると、雲のようにポーッと広がった姿を見ることが出来ます。明るくなっていれば、尾を見ることが出来るかもしれません。また、一眼レフカメラを持っている人は写真撮影にも挑戦してみてください。

彗星は緑色に写りますので、撮れているかがわかりやすいと思います。5月は北の空で一晩中見ることが出来ます。